

## 令和7年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点課題に対する総合評価

重点課題①「主体的に学びに向かう力の育成」、②「基本的生活習慣の確立」、③「生徒会・HR活動の充実」、④「進路意識の高揚」、⑤「探究活動・商業教育の充実」を設定し、課題解決に向けて取り組んだ。

課題①では、公開授業期間を設け、授業公開・見学と参観メモを活用した協働的な授業改善が進み、ICT・AI活用の共有も広がった。生徒アンケートでも主体的な学習姿勢の向上が見られた。課題②では、遅刻指導の徹底により遅刻者が減少し、生徒会・自律委員による身だしなみ・スマホルールの改善が規範意識の向上につながった。課題③では、生徒会企画を行事に取り入れたことで参加意欲が高まり、HR活動でも校則やクラス運営の話合いが活発化した。課題④では、先輩の体験談や進学相談会が進路意識を高め、面接週間での個別指導が自己理解の深化につながった。課題⑤の【普通科探究活動】では、地域団体と連携した探究活動が地域課題を自分事として捉える機会となり、【商業教育】では補習や講話を通して資格取得への意識が高まった。地域連携を通して、地域への理解や課題への気づきが深まった。

学校評議員からは、重点課題への取り組みの成果が現れており、学校運営が良い方向に進んでいるとの評価をいただいた。公開授業の工夫、キャリアガイダンスでの主体性の促し、探究活動での発表力向上への期待、生徒の自主性とマナーの両立、多様性を尊重した成長支援などの意見が寄せられた。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

学習活動、学校生活・特別活動、進路支援、普通科探究活動、商業教育は、生徒の学力向上・進路実現・人格形成に向けた本校の教育の柱であり、次年度も重点的に取り組む。

学習活動では、公開授業の継続や相互参観を進め、見学しやすい環境を整えながら授業改善を深めていく。生徒が学ぶ意味を実感し、主体的に取り組める授業づくりを大切にする。

学校生活・特別活動では、生徒会・委員会が校則周知や身だしなみ、マナー向上の取組を企画し、全校で実行できる体制を整える。生徒会行事は企画段階から生徒と教職員の意見を反映し、主体的に参加できる内容へ改善する。HRでは学校生活や進路、健康、マナーなどの話し合いを支援する。

進路支援では、キャリアガイダンス・OBを囲む会は生徒満足度が高い一方で準備負担が大きく、継続のためには運営方法の工夫が求められる。多くの教員が丁寧に面接を行っているものの進路情報の共有が効率的でなく、共有の仕組みを整備する必要がある。

普通科探究活動では、教員向け研修を定期的に行い、指導方法の共通理解を図る。助成金申請などで予算を確保し、生徒の探究活動をより充実させる。

商業教育では、実践的な学びを通して資格取得に挑戦する姿勢を育て、主体的な学習態度を定着させる。地元企業との連携を深め、地域活性化につながる取組を進める。

## 8 学校アクションプラン

令和7年度 新湊高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	生徒の主体的に学びに向かう力の育成	
現 状	素直で明るく、真面目に学習に取り組む生徒が多い。知識の習得が中心になりがちで、得た知識を活用して表現することや、クラスメートと協働して学習活動することに苦手意識を持つ生徒が一定数見受けられる。そのため、授業においては「主体的で対話的な深い学び」につながるようグループワーク、ディスカッション、ペアワーク等を取り入れたり、思考力・判断力・表現力を育てるためにタブレットなどのICT機器を用いたりして授業改善に努めている。また、主体性を持って多様な人々と協働して学ぼうとする態度を育成することにも力を注いでいる。	
達成目標	授業研究の実施 1人1回以上の授業公開と2回以上の見学(他教科の授業を1回以上見学)	主体的に学習に取り組むことができたと考ええる生徒の割合
	100%	85%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期と2学期に授業公開期間を設定し、教員が互いに授業を見学して授業力の向上を目指す。</li> <li>公開授業では生徒の知的好奇心を刺激し、主体的な学びを導くような授業研究に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習アンケートによる振り返りと学習方法の改善を促すとともに、手帳の活用習慣を定着させ、学力伸長の実感を支援する。教員は結果を詳細に分析し、生徒が自発的に学び、自身の成長を実感できる教育環境の構築に努める。</li> </ul>
達成度	公開授業実施率：90.9%（前年85.7%） 見学実施率：同教科75.8%（前年100%） 他教科54.5%（前年94.3%）	「当てはまる」：39.8%（前年30.3%） 「やや当てはまる」を含む肯定的回答：90.7%（前年81.1%）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>1・2学期に公開授業期間を設定。感想用紙の活用により、授業者は改善のヒントを得られた。また、自発的な質疑や意見交換が行われ、協議会を開催せずとも有効なフィードバックが機能した。</li> <li>授業見学において、自身の授業と時間が重複し、希望する授業を見学できないケースがある。スケジュール調整が今後の課題である。</li> <li>他教科の見学率が予想を下回った。時間確保に難しさはあるが、指導技術やICT・AI活用法の共有など学びは多いため、今後も積極的な見学を促していく。</li> <li>生徒アンケートでは「主体的に授業を受けることができた」との回答が前年比で約10%上昇した。この傾向維持のため、さらなる授業力向上に向けた努力を継続する。</li> </ul>	
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業や見学の実施率は目標の100%に届かず、特に他教科の見学が54.5%と低迷したため、今後はより積極的な声かけが必要である。</li> <li>主体的に授業を受けることができた生徒が約10%増えた点は良い傾向であり、その理由を分析して今後の授業作りに活かしていきたい。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自身が「何を、なぜ、どのように学ぶか」を自覚し、知的好奇心を持って主体的に学習に向かえるよう、適切な導きを期待する。</li> <li>公開授業の実施においては、取組内容・成果・課題を明確に総括し、教員間での積極的な知見の共有を図ることが望まれる。</li> <li>「主体的に授業を受けることができた」とする生徒の増加は、教育活動の着実な成果として高く評価したい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開期間の設定を継続し、実施率100%を目指す。自校のみならず、他校への学校訪問等も「授業見学」として認定し、柔軟で見学しやすい環境を整備する。</li> <li>同教科・他教科を問わず積極的な相互参観を促し、公開授業で得られた取組・成果・課題を組織的に共有・総括することで、授業改善の質を高める。</li> <li>生徒が「何を・なぜ・どのように学ぶか」を自覚し、知的好奇心を持って臨める授業を追求する。主体性の向上を維持すべく、授業力向上に努める。</li> </ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)

重点項目	学校生活・特別活動	
重点課題	基本的生活習慣の確立 (1) 時間を守る、身だしなみを整える (2) 規範意識の向上	生徒の主体的な活動と HR 活動の充実
現状	(1) 遅刻は少ない一方、挨拶は受け身の生徒が多く、自分から誰にでも挨拶できる生徒は少ない。スカートを短く穿く生徒が増えている。 (2) 校内でのスマートフォン使用違反が各学年で年間 10 件以上あり、登下校中の歩きスマホも多い。公共交通機関では乗車マナーについて注意を受けることがある。	・生徒会行事に「自主的かつ積極的に参加した」と答えた生徒は 95%と多かった。また多くの行事で生徒たちの主体的な活動が見られた。 ・集団の中で自分の意見を伝えたり、共有したりする場面が少なく、学校行事や HR 活動、生徒会活動で意見が反映されにくい状況がある。
達成目標	・正当な理由のない遅刻の件数 各学年 1 日平均 2 人未満 ・身だしなみ（挨拶・服装） アンケート 70%以上 ・通信機器に関する指導件数 各学年 年間 5 件以内	・生徒会行事に自主的かつ積極的に参加したと感じた生徒の割合 90%以上 ・HR 活動で話し合い活動を行った回数 各クラス 2 回以上
方策	・遅刻を繰り返す生徒には原因を把握し、生徒と共に改善策を考える。 ・生徒会や自律委員会を中心に、身だしなみや規範意識を高める取組を進める。	・特別活動の目標を各クラスの HR 運営委員に伝える。 ・生徒や教員から話し合い活動に関するアンケートをとり、情報共有する。
	・HR で規範意識やマナーの向上について話し合いを行う。	
達成度	・遅刻の件数（各学年 1 日平均 2 人未満） 1 学年 10 日、2 学年 28 日、3 学年 18 日 ・挨拶 よくできている 40.7% まあまあできている 45.8% ・服装 よく守られている 83.7% ・頭髪 よく守られている 84.7% ・通信機器の指導件数（各学年 5 件以内） 1 学年 12 回、2 学年 6 回、3 学年 6 回	・生徒会行事に自主的かつ積極的に参加したと感じた生徒の割合 できた 66.7% ほぼできた 30.1% 合計 96.8% ・HR での話し合い 2 回以上 10 クラス（83.3%） 平均回数 1.9 回
具体的な取組状況	担任及び学年での指導により遅刻を繰り返す生徒が少なかった。 スカート丈や登下校の服装など身だしなみの改善策について生徒会で検討した。 自律委員でスマホの校内ルールについてポスターを掲示して注意喚起し、違反者には学年指導で対応した。	生徒会企画の導入で生徒の関心が高まり、参加がより積極的になった。リーダーの主体的な行動も多く見られた。 HR では話し合い活動の提案により、校則やクラス運営について活発な議論が行われた。アンケートで得たアイデアを担任間で共有して取組の充実につなげた。
評価	B	目標は概ね達成できたが、各取り組みに対する動機付けが弱かったために取り掛かりが遅くなった。
学校関係者の意見	学校生活の中で規範意識を向上したり自主性や主体性を持ったりしたことが、卒業後も継続して自らが育ていけるような取組をしてもらいたい。	
次年度へ向けての課題	生徒会や委員会が校則周知や身だしなみ、マナー向上の取組を企画し、学校全体で実行する体制を整える。生徒会や自律委員会では校則見直しを継続する。 生徒会行事は、生徒と教職員の意見を企画段階から反映し、生徒の自主的・積極的な参加につなげる。HR では学校生活や進路、健康、マナーなどの話し合い活動が行われるよう支援し、自由時間にならないよう学期ごとに HR 計画を見直す。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)

重点項目	進路支援	
重点課題	進路意識の高揚 ・進路関係行事の充実（全体への支援） ・面接の充実（個別の支援）	
現状	・早い時期に受験校を決める生徒がいる一方で、具体的な進路目標がなかなか定まらず、受験期になって慌てる生徒も散見される。また、目標が定まっても、実現に向けた適切な学習行動に移せない場合もあるので、より高い目標を早期から持ち、自ら挑戦するように進路意識を高める必要がある。そのため、各種進路行事で全体への指導を実施し、必要に応じて面接によるフォローアップを行っている。	
達成目標	1・2学年	3学年
	・進路行事や面接により進路意識が高まり、進路実現に向けた行動がとれたと考える生徒の割合 4段階中3以上…75%	・3年間の進路支援に対して満足だと考える生徒の割合 4段階中3以上…75%
方策	・HR や総合的な探究の時間を利用して、進路学習や進学講話、進路ガイダンスを生徒の実態に合わせて効果的に実施する。 ・進路関係の行事後のアンケートは、事後の行動目標記入欄を含むものとし、行事が単なる動機付けにならないように工夫する。 ・ICT によるアンケート機能を活用し、教員間で生徒情報の共有を図り、コース選択や進路選択の時期を中心に、必要に応じて面接を実施して、生徒一人ひとりの進路実現を支援する。 ・キャリアガイダンス（職業研究、学部学科研究、模擬授業）は、PTA や地域の各種団体と連携して行い、社会に貢献する姿勢と自己実現に向けての意識を高めるものとする。 ・オープンキャンパス等の受験情報を随時発信し、具体的な行動を促す。	
達成度	1・2学年合計 77.3% （1月実施）	3学年 85.6% （1月実施）
	「かなりできた」…14.6% 「少しできた」…62.7%	「大変満足」…54.7% 「概ね満足」…30.9%
具体的な取組状況	・卒業生を囲む会（3月）とOBを囲む会（8月実施）は、直接、先輩の体験談を聞くチャンスとして生徒自らの将来を考えるきっかけとなっている。 ・キャリアガイダンス後のアンケートでは、次へ進むための行動目標を記述させたが、その後の指導にあまり活かせなかった。 ・希望生徒と保護者を対象とした大学・短大広報による進学相談会を本校で行い、気軽に進学相談をする場を提供できた。 ・1, 2学期には面接週間を設定した。さらに必要な生徒には、進路や生活に関する面接を柔軟に実施した。 ・ICT教材は、宿題の配信や検定対策を中心とした学習補助として活用した。	
評価	B	今年度実施した進路関係行事に対して、ほとんどの生徒は意識が高まり何らかの行動がとれたと感じる。面接では、一人ひとりに寄り添い、自己理解や夢の実現に向けての支援につなげることができた。
学校関係者の意見	早期からの進路意識向上に向けたキャリアガイダンスやOBとの交流機会の提供は、生徒の動機付けに有意義であった。今後も、個人に寄り添った手厚い支援を充実させていくことを期待する。	
次年度へ向けての課題	・キャリアガイダンスやOBを囲む会は生徒の満足度が非常に高いため継続実施することが望ましいが、準備に要する負担が大きいため、実施方法の工夫が必要である。 ・多くの教員が丁寧に時間をかけて面接を行っているため、生徒の進路希望などの情報を効率的に共有する仕組みを模索したい。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した）

重点項目	その他（普通科探究活動）	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究活動の内容の充実化と教師の負担の削減。</li> <li>地域連携によって生徒の主体的に学ぶ力を養う。</li> </ul>	
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な探究の時間をどう進めていけば良いのか各学年が苦心している。</li> <li>進路選択の際に自分のやりたい分野がわからない生徒がいる。</li> </ul>	
達成目標	探究活動が個性の伸長や自らの進路選択について役立ったと感じた生徒の割合	探究活動において持続可能な取り組みとして行うことのできた生徒の割合
	70%以上	70%以上
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の商工会議所や地元企業と連携して、生徒に富山県や射水市が抱える課題と現在の取り組みについて、現場の生の声を知ってもらう。</li> <li>地域の抱える課題の解決に向けて、地域の商工会議所や地元企業と連携することで多角的な視野を養う。</li> <li>総合的な探究の時間で行った各学年の取り組みをデータとして残して、次年度の参考になるように蓄積する仕組みを作る。</li> <li>外部と連携を図って、探究活動の取り組みやプレゼンについて客観的な評価をしてもらう。</li> <li>担当教員やプレゼンを見ていただいた外部の方にアンケートを実施して、評価をしてもらい、今年度の課題と次年度への活かし方を考える。</li> </ul>	
達成度	探究活動が個性の伸長や自らの進路選択に役立ったかという質問への回答 <b>【1学年】</b> 大変そう思う 12.6% まあまあそう思う 72.8% <b>【2学年】</b> 大変そう思う 16.0% まあまあそう思う 63.8%	探究活動において持続可能な取り組みとして行うことのできたかという質問への回答（グループ探究を行った2学年のみでアンケート実施）  持続可能な取り組みだと思う 87.2%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>射水商工会議所青年部、射水青年会議所、射水市役所政策推進課と協力した連携授業を実施することで、射水市や新湊地区の抱える課題について、現場の生の声を聞き、問題を自分事として捉えられる機会を設けた。</li> <li>探究フォルダを作成したことで、今年度にどのような取り組みをしたかというデータの蓄積を行い、次年度への引継ぎの体制を作った。</li> <li>年間指導計画を見直し、探究活動の方針や外部との連携といった内容を加え、次年度の外部講師への手配を進めている。</li> </ul>	
評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの個性の伸長や進路の選択に役立ったかという項目について「大変そう思う」、「まあまあそう思う」を合計すると、達成目標である70%を超えている。しかし「大変そう思う」が20%にも満たず、探究活動について意義を強く感じていない生徒が多いため、今後は探究活動と進路との繋がりも意識して取り組ませる必要がある。</li> <li>グループ探究の取り組みの持続可能性については、87.2%の生徒が「持続可能性がある」と答えている。次年度も引き続き、探究活動を一過性のものにせず、地域への波及力を持ち、次の学年へと引き継いでいけるような仕組みについても考えていかなければならない。</li> </ul>
学校関係者の意見	教員への支援の充実化や外部との協力を積極的に行うことで、生徒が主体的に探究活動を行える環境づくりを継続的に取り組むべきである。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員向けの探究活動の講座を定期的に行い、声かけの仕方や授業の進め方を担当者全員が理解することで、学年の特定の教員に負担がかからないようにする。</li> <li>探究活動に対する予算が少ないため、次年度は探究活動への助成金に申し込むなど、予算を確保して、生徒の探究活動が充実するような環境づくりを行う。</li> </ul>	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した）

重点項目	その他（商業教育）																												
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得の充実</li> <li>・地域の現状を知り活性化に向けて方策を考察する</li> </ul>																												
現 状	<p>全商検定1級合格者〔令和7年度実績〕（前年度）</p> <table border="0"> <tr> <td>簿記実務検定</td> <td>……………</td> <td>24名(20)</td> </tr> <tr> <td>ビジ初計算実務検定</td> <td>……………(珠算3名 電卓35名)</td> <td>38名(38)</td> </tr> <tr> <td>商業経済検定</td> <td>……………</td> <td>27名(31)</td> </tr> <tr> <td>ビジ初文書実務検定</td> <td>……………</td> <td>25名(30)</td> </tr> <tr> <td>情報処理検定</td> <td>……(ビジ初18名 プログラミング2名)</td> <td>20名(18)</td> </tr> <tr> <td>財務諸表分析検定</td> <td>……………</td> <td>6名(0)</td> </tr> <tr> <td>英語検定</td> <td>……………</td> <td>5名(2)</td> </tr> <tr> <td>全商検定三種目以上1級合格者(卒業時)</td> <td>……………</td> <td>28名(29)</td> </tr> <tr> <td>全商検定1級保持率(卒業時)</td> <td>……………</td> <td>97.4%(100.0%)</td> </tr> </table>		簿記実務検定	……………	24名(20)	ビジ初計算実務検定	……………(珠算3名 電卓35名)	38名(38)	商業経済検定	……………	27名(31)	ビジ初文書実務検定	……………	25名(30)	情報処理検定	……(ビジ初18名 プログラミング2名)	20名(18)	財務諸表分析検定	……………	6名(0)	英語検定	……………	5名(2)	全商検定三種目以上1級合格者(卒業時)	……………	28名(29)	全商検定1級保持率(卒業時)	……………	97.4%(100.0%)
簿記実務検定	……………	24名(20)																											
ビジ初計算実務検定	……………(珠算3名 電卓35名)	38名(38)																											
商業経済検定	……………	27名(31)																											
ビジ初文書実務検定	……………	25名(30)																											
情報処理検定	……(ビジ初18名 プログラミング2名)	20名(18)																											
財務諸表分析検定	……………	6名(0)																											
英語検定	……………	5名(2)																											
全商検定三種目以上1級合格者(卒業時)	……………	28名(29)																											
全商検定1級保持率(卒業時)	……………	97.4%(100.0%)																											
達成目標	<p>(1)全商検定三種目以上1級合格者数(卒業時)</p> <p>(2)全商検定1級保持率(卒業時)</p> <p>(1) 28名以上 (2) 100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の実情や課題を踏まえ、よりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う。</li> </ul>																											
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を見通し計画的に取り組み、上位検定の取得につなげる。</li> <li>・検定試験前に補習を実施し、学習効果を高める。</li> <li>・主体的な学びを通して、地域と連携する機会を設ける。</li> </ul>																												
達成度	<p>(1)全商検定三種目以上1級合格者数(卒業時) 28名</p> <p>(2)全商検定1級保持率(卒業時) 97.4%</p>	<p>就業体験、課題研究、パソコン教室など地域社会からの協力を得て実施する行事を通して、各自の役割を意識し地域社会に貢献しようとする意欲的な態度を身に付けた。</p>																											
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定前に補習等を実施するとともに、3年生が1・2年生に資格取得の大切さについて自身の体験をもとに説明し、学習に対する意識の高揚を図った。</li> <li>・射水市との連携事業(パソコン教室)において指導役を生徒が担当し授業で学んできたことを生かし、地域の方々のパソコンを学びたいという要望に応えることができた。</li> <li>・地元地域の企業での就業体験を通して自らの適性と職業に対する理解を深め、働くことの意義、地域の経済、産業について学ぶ機会とすることができた。</li> </ul>																												
評 価	B	<p>全商検定三種目以上1級合格者は目標に達成したが、1級保持率は及ばなかった。しかし、16名が5種目以上の1級を取得し、過去最多の8種目取得した生徒もいる。また、就業体験や課題研究による学びを通して地域の実情を知り課題を理解し、活性化に向けた改善策を考えた。</p>																											
学校関係者の意見	<p>資格取得の支援と地域連携事業を継続しつつ、生徒自身に振り返り、評価付けをさせる取り組みを行ってはどうか。しかし、生徒は一人ひとりの個性を持っており、達成目標に強くこだわりすぎないことも必要ではないか。</p>																												
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得の目標を達成することができなかった。商業科での実践的な学びを通して意欲的に資格取得に挑戦するなど、生徒が各自の目標達成に向け主体的に取り組もうとする姿勢を定着させていきたい。</li> <li>・主体的な学びを通して、地元企業との連携をより一層図り、地域の活性化に役立つアイデアや取組を実践できるようにしていきたい。</li> </ul>																												

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)